

11. 「“しくみ”を用いた安全確認型システム」の効用

“しくみ”を用いた安全確認型システムは、“手作り”の「カラクリ安全」です。運転または作業に従事する人と設備を担当する人とが一緒になって知恵を出し合い、それぞれの設備や作業に適した方式（仕掛け）を構築する必要がありますが、それゆえに小集団活動を通して現場に適したユニークな“しくみ”づくりを進めていけば、現場の一人一人が「安全確認型」とはどういうものなのか、安全を確保するということはどういうことなのか、を理解するようになり、安全意識が向上するだけでなく、安全活動の活性化を図ることができます。

今回モデルとして用いた簡単なプレス機械に限ってみただけでも16種類の“しくみ”が存在します。また、“しくみ”を用いた安全確認型システムは、さまざまな「しくみ」を用いることにより設備だけでなく道具や治具を用いた作業システムにも適用でき、また、機械安全だけでなく化学プラントの安全方策にも適用できます。最大の特徴は、センサや安全制御回路を必要としないので、単純かつ既存整備に適用しやすい、ということです。

読者の皆さんがそれぞれの職場においてチャレンジされ、安価でユニークな“しくみ”を考案して、人の注意力に頼らないで安全が確保される設備にすること、それにより安全レベルの向上と安全管理の効率化を両立されることを願ってやみません。

なお、今回説明した以外の“しくみ”や仕組みを作るための小道具については、別途このホームページに「“しくみ”を用いた安全確認型システム」として公開していますので、それを見てください。（ホームページのメニュー「しくみ事例集」をクリックしてください。）